

「国土と日本人」

大石久和

【発表概要】

この国は、いま経済的な危機にある。この20年間世界で唯一まったく経済成長しなかった国となり、この間ずっとデフレ経済に陥っていたから国民の貧困化が進行し、1995年には世帯所得の平均は660万円程度だったものが、2015年には546万円に低下した。

また、1995年には世界経済の約18%（名目GDP）を占めていた日本経済は、2015年には約6%と、わずか20年で三分の一のシェアにまで転落した。

にもかかわらず、政府も国会も経済成長に政策が集約できず、いまだ誤りの元凶である財政健全化を唱えるばかりで、間違ってきたことを正そうともしていない。これではキッシンジャーの「日本人は単調で、頭が鈍い」という評価に同意せざるを得ない。

日本人とは何なのか。ユーラシア大陸の民族は城壁のなかに都市を形成したが、日本人は都市を囲む城壁を持たなかった。それは、その必要がなかったからで、つまり殲滅戦をとまなうような厳しい紛争を経験してこなかったからである。

その代わりというように、日本人は予測も準備も不可能な自然災害で命を落としていった。愛する者の死に^{あいたい}相対することで、人は最も感じもするし、これが二度と起きないようにするために最も深く考える。

死の態様が異なることが、彼らとわれわれの間に異なる①歴史観②人為観③死生観④人間観⑤宗教観をもたらしたのだった。また、思考における①合理主義と情緒主義②長期視野と短期・暫定主義③主張の貫徹と妥協の円満主義という違いを生んだのである。

さらに、彼らは論理を語るための言葉を育んだが、日本人は思いを伝える情緒の言葉を磨いてきたのだった。

日本人は、駅伝やリレーに見られるように、「仲間への貢献に至福感」を感じるように「設計」されている。個の確立が大切、個人としての自立が何よりだと教えられ、そのことに悩む若者は、個の強要が自分を破壊していると考えて欲しい。

アイデンティティという概念のない日本であることや、集団競技が大好きな自分を見つめて、日本人としての原点を確固たるものにして、迷わずに生きたいのである。